



不老山 (928m) には若い頃に 3 回くらい登ったことがある。駿河小山駅からバスを使わずに直接登るのが良いと思った。当時勤めていた会社の総務部長から“高橋君、わが社にも山岳部を作って若い人を連れて行ってくれないかい”と頼まれた。もちろん引き受けた代わりに条件を出した。“山登りには、テントとかコンロなどが必要です”と言ってこれらを買って、“会社には置いておくところがないから私の家に置いておきます”と言って、自分で使った。2 回くらいは若い人をテント泊に連れて行ったこともあったと思う。しかし会社の行事は日帰り程度の方が向いている。年に 2 回くらいはそちらの方もちゃんとやって、その一つが不老山であった。地図で見ても 2 時間半くらいで登れるようになっている。我が家からも 2 時間くらいで駿河小山へは行ける。だから軽い気持ちで行った。しかし条件はずいぶん変わっていた。駅を降りても「不老山」という指導表は見当たらない。街を歩いていたおばさんに聞いたら“良く解らないけどあっちから降りてきた人を見たことがあるよ”と教えてくれた。その通りに行ったら何とかルートらしい道になった。しかし不老山への指導表はやはりない。急な登りを手すりにつかまりながら登り切ったら、高度差がほとんどない標高 500m くらいのところに道が長く続いた。それから高度差が付いてきてかなりバテタ。もうやめようと何回か思った。ピークと思ってそこまで行くと更に上がある。地図では 2 時間半と書いてあったが、3 時間かかった。よくあきらめなかったもんだ。降りはずっとひどかった。登り道を戻ったつもりであるのだが、1 時間くらい降った鉄塔のあるところまでは間違っていなかったはずであるが、登山道のすぐ左に林道が追っている。登山道が変なところばかりになってきたので林道に降りてみた。駿河小山まで 5.2 km とあったので、そのまま林道を行った。そしたらなかなか着かない。自動車道に出てもそこから駅までは更に 40 分くらいかかった。心の傷はハンパなかった。山の人気が無くなっていることを思い知らされた一日であった。